

第7章 地域別重点推進事項

1 中北地域

(1) 平坦地から高冷地にわたる特性を生かした農業の振興

中北地域のうち、標高が比較的高い八ヶ岳南麓や釜無川沿岸を中心とした地域では、県内の米生産量の約5割を占める水田農業が営まれており、茅ヶ岳山麓等では野菜等の畑作農業が、八ヶ岳南麓地域を中心に畜産等が営まれています。

また、甲府盆地の中心から北西部に及ぶ地域では、多種類の品目が栽培される果樹産地が形成され、盆地中央部の都市近郊では地の利を生かした野菜や花き等の生産も盛んに行われています。

近年、この地域では就農定着支援制度を活用した新たな担い手の営農開始、企業の農業参入や大規模農業経営体の増加がみられますが、今後もこうした傾向を拡大していくためには、今まで以上に自然や立地条件等を生かした産地づくりが必要です。

このため、水田農業の構造改革や、畑作地帯を中心とした果樹産地の再生整備、冷涼な気候を生かした野菜や畜産、花き産地の強化等を推進します。

水田農業の経営安定対策の推進

- ◇ 水田農業の経営安定により、将来にわたり多面的機能が十分に発揮されるように、日本型直接支払制度の活用により、地域の共同活動や営農活動等に対して支援し、農業・農村の多面的機能の維持・発揮を促進するとともに、規模拡大に取り組む担い手の負担軽減と構造改革を推進します。
- ◇ 北杜市、韮崎市、甲斐市において生産されJAを通じて販売される「コシヒカリ」や「農林48号」などの「梨北米」のブランド強化や、中央市の「ヒノヒカリ」を活用した新ブランド米「富穂」の産地化を支援するとともに、昭和町における酒米「山田錦」の生産や企業と連携した新たな業務用米の生産、飼料用米生産など、特色ある水田農業を推進します。

オリジナル品種の産地化と観光との連携による果樹産地の強化

- ◇ 県育成品種のぶどう「甲斐のくろまる」や、市場評価が高く栽培が拡大している「シャインマスカット」「サニードルチェ」、すもも「サマーエンジェル」などについて、栽培指導と普及を一体的に進め、ブランド化につなげます。
- ◇ 県が育成した新品種である、もも「夢みずき」、南アルプス市とJAが推奨するすもも「皇寿」など、新たな有望品種を産地化するため、品種特性の把握や普及啓発などを推進します。
- ◇ 耕作放棄地の有効活用と地域の新たな特産品づくりを一体的に進めるため、醸造用ぶどう、薬草やハーブ類など特色ある品目の導入検討を推進します。
- ◇ 農作業の省力化や経営の効率化、担い手への農地集積を図るため、ほ場整備等の生産基盤の整備を推進するとともに、省力化技術の導入や定着を支援します。

- ◇ 観光と連携した産地強化を図るため、既存観光農園や直売施設の充実に向けた取り組みや、新たな観光連携事業の構築を支援します。

冷涼な気候や施設を活用した野菜、畜産、花き等の産地強化

- ◇ 野菜産地において、標高差を生かした高品質で付加価値の高い品目づくりや、冷涼な環境を生かした低コスト生産、有機農業などの取り組みを推進します。
- ◇ 中央市や南アルプス市におけるトマト、きゅうりをはじめとした施設野菜、甲府市や中央市におけるスイートコーン、なす等の露地野菜などにおいて、新品種の導入や新技術の指導、重要病害虫対策の強化などに取り組みます。
- ◇ 甲州統一ブランド食肉（甲州牛、甲州麦芽ビーフ、甲州ワインビーフ、甲州富士桜ポーク、甲州地どり、甲州頬落鶏）の生産基盤の維持・強化の取り組みを推進します。
- ◇ 酪農や肉用牛経営の安定化に向けて、自給飼料増産を図るための飼料イネ生産や耕作放棄地等を活用した放牧の拡大を推進します。
- ◇ 花き産地において、「ピラミッドアジサイ」の栽培技術の向上、新品目・新品種の導入による商品開発や販売、若手就農者の資質向上などの取り組みを支援します。

地域特産物等の6次産業化や販路の拡大推進

- ◇ 管内で生産される果樹や野菜など地域の農産物の更なる高付加価値化を図るため、6次産業化に取り組む農家や女性起業グループ、事業者に対し、6次産業化サポートセンターと連携して、相談活動や要望に応じた支援を推進します。
- ◇ 加工品開発に取り組む農家や組織等に対して、新商品開発のアドバイス、販売会への参加等の販路開拓を支援するとともに、参加企業への加工用農産物の提供や原料農産物の栽培指導を推進します。
- ◇ 農産物直売所等において、年間を通じて特産品の品揃いを充実させるため、直売向け品目や加工品の生産拡大を目指した栽培技術指導と加工品開発を支援します。

産地を支える担い手の確保・育成

- ◇ 認定農業者や農業生産法人など、産地の中核的な担い手を確保・育成するための就農相談や各種研修会、個別指導等を推進します。また、離転職者や定年帰農者、企業の農業参入等、多様な担い手を確保する取り組みを推進します。
- ◇ 就農を前提に農村に移住し、農業生産活動や地域活動を行う都市住民等の活動を支援するとともに、就農定着支援制度により、農家子弟や新規参入者のスムーズな就農を支援します。
- ◇ 就農を希望する研修生や新規就農者を指導するアグリマスターグループやJA営農サポートセンターの活動を支援し、果樹産地の新しい担い手確保を進めるとともに、作業受委託の推進や栽培の集約化による果樹産地の維持拡大を推進します。
- ◇ 大雪による被災農家の一刻も早い再建に向けて、施設の再建支援や栽培指導の拡充などにより、経営回復を支援します。

(2) 豊かに広がる自然と調和する農村づくり

中北地域は、3,000m 級の山々からなる南アルプスや八ヶ岳南麓の高原等の自然や観光資源に恵まれており、毎年、多くの観光客が訪れています。今後、地域の活性化を図るには、観光と連携した農業の振興と農村づくりが必要です。

このため、地域の資源を生かした都市農村交流や観光農業が進められるよう、受入れ組織の育成や交流の拠点となる施設の整備、農村環境の整備等の取り組みを推進します。

都市農村交流と観光農業の推進

- ◇ 都市農村の交流の活発化を目指し、さくらんぼ狩りやいちご狩りなどの観光農業を推進するとともに、大型観光バスの観光農園や直売所へのアクセス改善のための基幹道路の整備などを推進します。
- ◇ 地域資源や地場産品などを活用して、農業を核とした新たな産業「アグリビジネス」を育成し、地域農家の経営安定や新たな定住者の雇用の場の創出を図るため、管内にモデル地区を設定し、住民自らの地域活性化計画の策定を推進します。

農地の生産基盤整備と企業の農業参入の促進

- ◇ 作業効率の向上と生産の安定化を目指し、管内において、県営事業や国営事業を活用し、畑地帯総合整備事業や中山間地域総合整備事業などにより、ほ場整備や農業用水の確保などを推進します。また、畑地かんがい等の農業水利施設の機能保全や長寿命化を図り、農業用水の確保を推進します。
- ◇ 地域住民の生活環境の改善を目指し、老朽化したため池の整備や、農村地域活性化のための農道の整備などを推進します。
- ◇ 市町や農業委員会、農地中間管理機構等と連携し、耕作放棄地等を解消しながら、農産物の生産形態に合わせた農地整備等を行い、企業の農業参入を促進します。

担い手への農地集積・集約化と農地の有効活用

- ◇ 農業経営の効率化に意欲的な担い手へ農地を集積するため、管内の市町等と連携し、人・農地プランや農地中間管理機構の活用を図るとともに、必要に応じ農地の条件整備を行い、集積面積の拡大を推進します。
- ◇ また、耕作放棄地再生利用交付金の活用により、耕作放棄地の解消を推進します。

鳥獣被害のない地域づくり

- ◇ 農作物の鳥獣被害を防止するため、中山間地域総合整備事業や県単鳥獣害防除事業を活用し、被害地域における電気柵等の防止施設の整備を推進します。
- ◇ 鳥獣被害未対策地域等において、地域で防ぐ鳥獣被害防止支援事業を活用した集落診断の支援など、地域ぐるみでの鳥獣被害防止活動を推進します。

2 峡東地域

(1) 地域を代表する地場産業としての果樹農業の振興

峡東地域は、ももやぶどうなどを中心に県内の果樹生産量の約8割を占め、全国に誇れる果樹産地として発展しており、地域には様々な地域ブランドも根付いています。一方、峡東南部地域では果樹との複合経営により県内有数のスイートコーンやなすの産地を形成しています。

今後とも、この地域を競争力のある産地として維持・発展させていくためには、果樹を中心に、地域ブランドや販売競争力を強化するため、ブランド価値を高める商品づくりや農産物の安全・安心への取り組み、販路の拡大に向けた果実の輸出促進を推進するとともに、低コスト化につながる効率的な生産を可能とする果樹園の基盤整備や選果体制の整備、担い手への農地の集積等を推進します。

果実生産の高品質化、効率化、販売力強化

- ◇ ブランド力と販売競争力を強化するため、農業団体や試験研究機関等と連携した各種講習会や研修会などの充実を図り、ぶどうやももなどの高品質安定生産技術や省力化技術等の新技術の積極的な導入を推進します。
- ◇ 農業団体や試験研究機関等と連携して、「甲斐のくろまる」や「夢みずき」などのオリジナル品種の栽培技術の普及と産地化を支援します。
- ◇ ぶどうの生産安定を目指して、簡易雨除け栽培の普及定着のための管理技術指導や、低コスト型雨よけ施設の生産安定効果や抑制栽培への応用検証に取り組みます。
- ◇ 「峡東地域特選農産物ブランド化推進会議」の活動と連携して、「富士の国やまなしの逸品農産物認証制度」を活用した、流通販売関係者や消費者に対するPRにより、J Aブランドや峡東ブランドなど地域ブランドを強化します。
- ◇ 集出荷体制の効率化やコストの低減を図るため、共選所の再編整備を支援し、果実の高品質化と販売力強化を推進します。

果実の輸出促進

- ◇ 主要な輸出先である台湾の検疫措置に対応するため、対象害虫の予察や発生状況に基づく的確な防除指導や出荷梱包施設の巡回指導を推進します。
- ◇ 農業関係団体等と連携し、「シャインマスカット」等の輸出品目・品種の拡大や、東南アジアなど新たな輸出先の開拓により、果実の輸出拡大を推進します。

醸造用ぶどうの栽培面積の増加

- ◇ 世界的に認められつつある甲州種の主力産地として、農地中間管理機構を介した農地のあっ旋や、参入を希望する企業の要望に沿った基盤整備を推進し、ワイナリー等による醸造用ぶどう生産を支援します。
- ◇ 醸造用甲州種の栽培農家の経営安定と原料の安定供給のため、管内の栽培状況の把握や、ワイン酒造組合と連携した栽培農家とワイナリーの契約栽培を推進します。

果樹生産基盤の再編と担い手への農地集積

- ◇ 畑地帯総合整備事業等により地域の実態に応じたほ場整備や農地の流動化・集積を推進するとともに、新規事業導入候補地区については、ワークショップなどを通じて地域の合意形成を支援します。
- ◇ 農地の利用集積や整備後の営農を見据えた優良品目や品種、栽培技術等の地域への提案により、生産基盤の再編と農地の集積を推進します。
- ◇ 農地中間管理機構と農地利用集積円滑化団体と連携して、農地の借受希望者と貸出農地のマッチングを促進し、担い手の農地集積を推進します。

産地を支える担い手の確保・育成

- ◇ 市や農業団体等と連携した就農相談会の開催や峡東地域担い手育成対策会議を通じた情報の共有等により、円滑で効果的な果樹栽培の担い手の確保・育成を推進します。
- ◇ 新規就農者等の経営安定化を図るため、事業や資金の導入支援に加え、就農定着支援制度や青年就農給付金等により就農研修を支援するとともに、退職帰農者を含む就農まもない農業者への果樹技術向上セミナーや経営改善研修会等の充実により、栽培技術や経営能力の向上を支援します。
- ◇ 果樹栽培を目指す新規就農者の農地確保を支援するため、市と連携して人・農地プランの内容の充実・強化を図るとともに、農地中間管理機構と連携して樹園地を中心とした農地の仲介を推進します。
- ◇ 地域の中核的な担い手に対しては、更なる高度な技術習得に向けた研修会等の開催や情報提供に努めるとともに、経営安定化に向けた事業・資金の導入を支援するとともに、管内JAに対しては農繁期の援農者を確保する体制整備を支援します。

(2) 地域農業の高付加価値化の推進

峡東地域は、果樹園が織りなす四季折々の美しい景観をはじめ、果樹に特化した産地特性を生かした観光農園や農産物直売所、ワイナリー等の交流施設や農業体験メニューが数多くあります。

このため、6次産業化をはじめとする付加価値の高い商品づくりや地域資源を活用した産地の活性化、更なる増加が見込まれる国内外の観光客をターゲットとした観光農業の振興等を推進します。

農業・農村資源をフル活用した6次産業化の推進

- ◇ 加工技術の向上や新商品開発に向け、「峡東地域6次産業化推進会議」で開催する研修会の充実・強化を図るとともに、商談会等のマッチング機会の増大により、JAや農家等の6次産業化の取り組みを推進します。
- ◇ 6次産業化に取り組む農家や事業者に対しては、やまなし6次産業化サポートセンターと連携し、相談活動や要望に応じた支援を推進します。
- ◇ 農村資源を活用した地域の活性化を目指して、モデル地域を選定し、地域資源の洗い出しや住民の話し合いによる地域活性化計画の作成と実践を支援します。

- ◇ 薬草など果樹以外の地域資源の発掘と活用などにより、産地の活性化を推進します。

都市農村交流による果樹農業の高付加価値化の推進

- ◇ 交流施設や直売施設の魅力を高め、交流人口を増大させるため、地元農産物を活用した加工品などのメニュー開発を支援します。
- ◇ 企業の農園づくり等を活用し、関係機関と連携しながら地域の主力品目である果樹を中心とする地域資源を生かした企業の農業体験ツアー等の企画、運営を支援します。

環境保全型農業等による農業の高付加価値化の推進

- ◇ 環境保全型農業直接支払制度を活用し、果樹における草生栽培や農薬削減などの取り組みを支援し、農産物の高付加価値化を推進します。
- ◇ 農薬や化学肥料の削減に取り組むエコファーマーの計画作成や更新を支援します。
- ◇ G A P手法の普及拡大を目指して、J A等の生産組織を活用して、既導入産地での取り組み改善や新たな産地・組織への導入を支援します。
- ◇ 峡東地域に点在する有機農産物が地域の特産品となるように、栽培技術指導や販路拡大に向けた出荷体制の確立への取り組みを支援します。

歴史あるぶどう棚や桃源郷の世界農業遺産への認定推進

- ◇ 峡東地域が全国に誇る桃源郷、果樹栽培やワイン文化などの世界農業遺産への認定を目指し、市や関連団体と連携した推進体制の構築や申請に必要な取り組みを支援します。
- ◇ 歴史ある甲州式ぶどう棚や桃源郷としての景観を守るための保全活動、農業景観を活用した都市農村交流等、地域の活性化につながる活動を推進します。

3 峡南地域

(1) こだわりの農産物づくりによる地域農業の活性化

峡南地域は、県の南部に位置し、南アルプスの山々や南に渓流する富士川へ注ぐ流域ごとに、生産量は少ないものの、温暖な気候を生かした茶の栽培、あけぼの大豆や大塚にんじんなど、伝統的な農産物やこだわりの農産物が数多く生産されています。

そこで、こうした特色ある農産物の生産振興を通じて地域農業の活性化を図るため、栽培技術の改善や安定した販路としての直売所の利活用、地産地消の取り組み等をより一層推進します。

地域農業を支える多様な担い手の確保、育成

- ◇ 新規就農希望者の掘り起こしを行うとともに、就農希望者に対しては、新規就農応援チームにより、就農研修から担い手として地域に定着するまで、農業技術や農地、住宅、資金等を支援します。
- ◇ 新たな地域農業の担い手として、建設業等の他業種からの農業への参入を促進するため、農地中間管理事業や基盤整備事業等により農地確保などを支援します。
- ◇ JA や町など関係機関と連携して、退職帰農者や兼業農家等を対象とした講習会の開催などを通じて、多様な担い手の育成を推進します。

地域特産物の生産振興

- ◇ JA 部会や地域での講習会などを通じて、市川三郷町のスイートコーン「甘々娘」、大塚にんじん、桑、富士川町のゆず、身延町のあけぼの大豆、南部町の茶など、特色ある農産物の安定生産を支援します。
- ◇ 南部町を中心とした茶産地の維持・発展に向けて、栽培技術の改善や品質向上、生産組織の育成等を推進します。
- ◇ 多様な担い手による地域特産物の生産拡大を目指して、農地中間管理機構と連携して、遊休農地の解消や農地集積、基盤整備を推進します。
- ◇ 山間地域における耕作放棄地等は、有機農業に取り組む新規就農者等が有効に活用できるように、農地の貸借や鳥獣被害防止施設の整備を支援します。

農産物直売所の利活用の推進

- ◇ 直売所へ農産物を供給する農家、農家集団を育成するため、直売所ごとに栽培講習会を開催するとともに、年間を通して消費者が求める品揃えができるように、少量多品目栽培等の取り組みを支援します。
- ◇ 新鮮で安全・安心な地元農産物の販売強化と直売所の経営安定を目指し、6次産業化セミナーなどを通じて、直売所相互の連携強化を推進します。

地元農産物への理解と利用の拡大

- ◇ 農産物の生産、加工等に取り組むグループや生産者団体等のイベント開催を支援し、消費者への地元農産物の理解を深め、地産地消・地産訪消を推進します。
- ◇ J A、生産組織、学校給食関係者との連携を強化し、学校給食への新鮮な地元農産物の利用拡大を推進します。
- ◇ 地域資源や地場産品の活用を支援する事業などを通じて、農産物生産者と食品加工業者、地元飲食店などの幅広い他業種とが連携した加工・販売の仕組みづくりを支援し、地域の6次産業化を推進します。

(2) 地域の歴史と文化を生かした農村づくり

峡南地域は、豊かな自然や歴史・文化に育まれた地域資源、伝統的な地場産業等が根づいており、中部横断自動車道(2017年開通予定)の整備により、都市住民等の交流人口の増加が期待されています。

このため、都市農村交流を基軸とした地域資源の保全、歴史や文化を生かした魅力ある農村づくりを推進します。

地域資源を活用した都市農村交流の推進

- ◇ 都市農村交流体験を推進する関係機関と連携した、新たな農業体験メニューの創出や交流イベント等の拡充を通じて、峡南地域の交流人口の増大を目指します。
- ◇ 地域の活性化施設の利活用を通じた都市農村交流を推進するため、農産物直売所や体験交流施設等への地域農産物や特産品等の供給拡大を支援します。

地域食材資源の有効活用

- ◇ 農業を基軸とした地域活性化を図るため、地域特産品の周年供給を目指し、たけのこ、茶、あけぼの大豆等の加工品への利活用を促進します。
- ◇ ホンモロコ等の淡水魚やニホンジカ等のジビエを新たな地域の特産品として育成するため、専門家の協力のもと調理方法、加工品開発や販路開拓を支援します。

農地の保全と活用、農業用施設の管理と長寿命化対策等の促進

- ◇ 中山間地域等直接支払制度の集落協定に基づく農業生産活動や、多面的機能支払の共同活動を支援し、耕作放棄地の発生抑制や農村資源の管理、保全を推進します。
- ◇ 耕作放棄地を再生するため、省力作物の導入、体験農園の設置、農地中間管理機構を通じた経営規模拡大希望農家や農業参入を希望する企業とのマッチング等、地域の実情に合わせた多様な活用を支援します。
- ◇ 老朽化が進行する農道橋梁、ため池、用排水路などのストックマネジメントや地すべり指定地域における防止対策等により、農地、農業用施設への被害を未然に防止する防災・減災の保全対策を推進します。

地域ぐるみによる鳥獣被害防止対策の推進

- ◇ 峡南地域鳥獣害防止対策会議における農作物等の被害状況の把握、被害防止方策の検討や普及、被害防止事業の導入調整等の取り組みを通じて、関係機関が一体となって鳥獣被害対策を強化します。
- ◇ 町や中山間地域等直接支払の協定集落、多面的機能支払の活動組織などと連携し、専門家による集落診断や被害状況調査に基づき、集落内の巡回指導や被害防止技術講習会の開催、被害防止施設の整備等、地域ぐるみによる鳥獣被害防止対策を推進します。

4 富士・東部地域

(1) 冷涼な気候等を生かした農産物の生産振興

富士・東部地域は、急峻で狭小な農地が多い中山間地域ですが、大消費地に近い立地条件や夏季の冷涼な気象条件を生かした酪農や高原野菜、花きの生産等、特色ある農業経営が行われています。

今後は、こうした地域の特性を踏まえた農業生産の一層の振興を図るため、ブランド力強化や低コスト化等を促進するとともに、地域農業を支える担い手の確保・育成と鳥獣被害防止対策を推進します。

野菜や花き等のブランド力の強化

- ◇ 富士山麓の恵まれた条件を生かした高品質な「富士山やさい」のブランド定着を図るため、JAや生産者組織の広域連携を強化しながら、年3作栽培技術や新品目の導入による生産拡大、実需者等への販路拡大などを支援します。
- ◇ 特産品であるピオラやニオイザクラ等の花き産地のブランド力を強化するため、県及び農家が育成したオリジナル品種の生産拡大や、地域における共販体制の確立と販路開拓を支援します。

酪農等畜産経営における低コスト化・省力化

- ◇ 畜産経営の安定化につながる飼料の自給率を高めるため、飼料生産受託組織（コントラクター）の活用による飼料生産作業の効率化、低コスト化や、搾乳牛放牧等の省力化技術の導入を推進します。
- ◇ 富士ヶ嶺地域において、JAやコントラクターなどの関係者が一体となって高収益型畜産体制（畜産クラスター）を構築し、生産基盤を強化するとともに、牛乳、乳製品の地域ブランドの確立や販路開拓等の取り組みを推進します。

地域農業を支える多様な担い手の確保・育成

- ◇ 地域農業の担い手となる認定農業者や中核的農業者等を育成するため、経営計画の樹立に対する支援を行うとともに、UIターン就農希望者や参入希望企業に対しては、研修制度の活用や経営基盤の整備支援などにより地域への定着を促進します。
- ◇ 利用可能な農地を継続して活用していくため、農地中間管理機構や農業委員会等と連携し、規模拡大指向農家への農地集積が進むよう、農地の出し手とのマッチングを推進します。

地域ぐるみによる鳥獣被害防止対策の強化

- ◇ 富士・東部地域野生鳥獣被害対策連絡会議を通じて、地域の実情に応じたソフトとハードの両面から鳥獣被害対策を効果的に推進するとともに、市町村鳥獣被害対策実施隊を中心とした有害鳥獣の追い払い等の組織活動を促進します。

- ◇ 集落診断や地域住民の話し合いを通じて、防護柵の管理や餌場の除去を行うなど、地域ぐるみによる被害防止対策を推進します。

(2) 世界遺産「富士山」を追い風にした地域の活性化

富士・東部地域は、世界文化遺産に登録された富士山や富士五湖をはじめ、多摩源流等恵まれた観光資源を有しており、国内外から多くの観光客が訪れています。また、道の駅等における地元農産物の直売や観光農園の開設等、地域において観光農業が活発に展開されています。

今後は、観光をはじめとする他産業との連携、観光客等が満足する地産地消の深化、地域資源の保全等により地域の活性化を推進します。

観光や食品業など多様な産業との連携によるアグリビジネスの展開

- ◇ 地域の販売拠点となる直売施設の整備や直売品目の拡充を支援するとともに、宿泊施設や食品関連企業等との連携により、地域農産物の食材や加工原料、お土産等としての利用を促進し、地域内流通の拡大を図ります。
- ◇ 市町村やJA、民間企業、大学等と連携して、地域住民が主体となって行う農村地域の多様な資源の掘り起こしや、アグリビジネスに結びつける地域計画の作成を支援し、地域農業の活性化を目指す取り組みを推進します。

観光客等を対象とした地産地消の深化

- ◇ 夏どりスイートコーンや川魚などの地域特産物を活用した加工品開発等を推進し、観光客等にアピールできる商品づくりと、直売所や観光施設等での販売拡大を支援します。
- ◇ 富士山や多摩源流などの観光資源に恵まれた立地条件を生かして交流人口を増大させるため、地域農産物を提供する施設や観光農園、収穫体験ほ場等の整備や体験メニューの充実を支援します。

美しい農村景観の保全活動及び農地・農業用施設の保全・整備の推進

- ◇ 富士山を背景とする美しい農村景観や自然災害を防止する機能等の農業の多面的機能を守るため、日本型直接支払制度を活用し、農地をはじめ水路、農道等の地域資源を維持・管理する地域ぐるみの活動を推進します。
- ◇ 大規模地震、集中豪雨による洪水や土砂崩落等の自然災害に対応するため、農地防災事業等により、農地及び農村の防災保全対策を実施し、安全・安心なむらづくりを推進します。
- ◇ 営農基盤の強化による担い手への農地集積を図るため、農業農村整備事業等により、ほ場、用排水路、農道等の農業基盤整備を推進するとともに、併せて農村の生活基盤の整備による定住促進を図ります。

5 地域で目指すべき経営モデル

ここで示す経営モデルは、各地域の代表的な作目や作型を組み合わせ、効率的かつ安定的な農業経営を実践している代表的なモデルであり、本県農業において将来の中心的な役割を果たす担い手や経営規模の拡大を目指す先進的な農業者が、自らの経営の将来像を具体的にイメージできる資料として活用してください。

これらの経営モデルを基礎に、各地域における特徴や強みを生かしながら、第5章の施策の方向に盛り込んだ施策・事業等を積極的に活用し、更に、経営を発展させることで産地強化に資することを期待します。

【活用にあたっての留意事項】

有利販売を実現するため、県オリジナル品種やブランド食肉などの品目・品種を積極的に導入する。

果樹における品種については、ももでは、早生、中生、晩生、ぶどうでは小粒種、大粒種、醸造用としている。品種の選定にあたっては、県奨励品種を中心に、地域の主力品種の導入を基本とするが、面積に応じて労力分散に十分配慮して導入する。作物、野菜類については、従来の基幹品種に加え、温暖化に対応した品種や地域の伝統野菜などを積極的に導入し、安定生産とともに高付加価値化を図る。

【作成にあたっての前提条件】

地域の優良事例の経営品目・作付面積を参考にモデルを組み立て、農業経営指標（H26.3 山梨県）をもとに試算を行いました。また、経営指標にない作型等については類似する指標等を活用しました。

（試算条件）

面積：事例の面積を基本としつつ、端数については切り上げ等の処理を実施。

経営面積：作目毎の作付面積は作型の組み合わせや輪作による延べ面積とし、経営面積は保有している農地の面積の合計となるので必ずしも一致しない。

収量：指標を基本に、これを上回る事例については事例の水準を参考。

単価：指標を基本に、果樹については露地栽培の出荷量の3割程度を宅配により販売すると想定し、2倍の単価を設定。果樹以外については、指標を上回る事例についてのみ事例の単価を参考。

補助金：作物中心のモデルでは、経営所得安定対策による交付金収入を見込んだ。

地代：考慮していない。

労働時間：主たる従事者の労働時間をピーク時で最大10時間とし、これを上回る部分を雇用労力で補うものとする。

雇用労賃：時給×労働時間で積み上げ、時給については800円で統一。

農業所得：家族経営のモデルについては「農業粗収益－農業経営費」での算出。法人経営については粗収益－経営費として算出しているため、実際は法人の内部留保等になる部分を含め所得として取扱っている。なお、経費の内訳が不明なモデルの所得額は、農林水産省の品目別統計（H19）の品目ごとの農業所得率により算出。

(1) 標準経営モデル

農業経営基盤強化促進法に基づき各市町村が定める基本構想に示す経営類型および基本構想にない一部の類型については実際の経営事例から抽出し、農業経営指標（H26.3山梨県）に基づいて試算したモデルです。各地域において、一定の所得を確保する効率かつ安定的な農業経営を実践するための標準的な経営モデルとして、経営の組み立てにおいて参考とすべき経営面積や品目・作型等を例示してあります。

経営モデル		番号
果樹	もも専作	No. 1
	ぶどう専作	No. 2、No. 3
	多品目複合	No. 4、No. 5
	観光、加工	No. 6、No. 7、No. 8、No. 9
野菜	露地・雨よけ（トンネル）	No. 10、No. 11
	施設利用	No. 12、No. 13、No. 14
	有機栽培	No. 15
	水稻複合	No. 16、No. 17
水稻	野菜複合	No. 18、No. 19、No. 20
花き	専作	No. 21
	複合	No. 22、No. 23
	野菜複合	No. 24
茶	専作	No. 25
畜産	酪農	No. 26、No. 27
	肉用牛	No. 28
	養豚	No. 29
	採卵鶏	No. 30
水産	養殖	No. 31

< 標準農業経営モデルの一覧 >

営農類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	経営のポイント (品目・品種構成、栽培技術など)	想定 地域
No. 1 果樹専作	経営面積 1 2 5 a もも(早生種) 40 a もも(中生種) 30 a もも(晩生種) 50 a 宅配 5 a	16,000	6,000	品種の組み合わせにより労力分散を図るとともに、早期着果調節など省力技術の導入や疎植、低樹高化により作業性と受光環境を向上する。	峡東
No. 2 果樹専作	経営面積 1 4 0 a ぶどう(小粒種) 10 a ぶどう(大粒種) 60 a ぶどう(醸造用) 50 a 宅配 20 a	12,000	6,000	発芽促進剤を利用した生育差による労力分散、短梢せん定栽培の導入や省力化技術の導入により規模拡大を図る。醸造用甲州はメーカーとの契約栽培を前提とする。	峡東
No. 3 果樹専作	経営面積 7 0 a 施設ぶどう(大粒種) 30 a ぶどう(大粒種) 40 a	16,000	5,000	施設の超早期加温栽培では、二度切り栽培や炭酸ガス施用など、安定生産、収量向上技術を導入する。	峡東
No. 4 果樹複合 (多品目)	経営面積 1 3 0 a もも(早生種) 20 a もも(中生種) 10 a もも(晩生種) 20 a すもも(早生種) 10 a すもも(中生種) 20 a すもも(晩生種) 10 a ぶどう(大粒系) 40 a	16,000	6,000	もも、すももは、労力分散が可能な品種構成とするとともに、疎植、低樹高化により作業性と受光環境を向上する。ぶどうは短梢せん定栽培の導入と簡易雨よけによる省力化と生産安定を図る。	中北
No. 5 果樹複合 (多品目)	経営面積 9 0 a すもも(中生種) 30 a すもも(晩生種) 20 a ぶどう(大粒種) 40 a	12,000	6,000	すももはサマーエンジェルや貴陽などを基幹に棚栽培で品質向上を図る。ぶどうは大粒種を基幹に短梢せん定栽培の導入等により省力化を図る。	峡東
No. 6 果樹複合 (観光)	経営面積 1 1 0 a おうとう 30 a すもも 20 a もも(早生種) 20 a もも(中生種) 20 a もも(晩生種) 20 a	17,000	7,000	おうとうは一部観光摘み取り園とする。すももは棚栽培により高品質化を図る。ももは疎植、低樹高化により作業性と受光環境を向上する。	中北

営農類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	経営のポイント (品目・品種構成、栽培技術など)	想定 地域
No. 7 果樹複合 (観光)	経営面積 100a おうとう 30a もも(早生種) 20a もも(中生種) 20a もも(晩生種) 10a ぶどう(大粒種) 20a	15,000	6,000	おうとうは、一部を観光摘み取り園とする。ももは疎植、低樹高化により作業性と受光環境を向上する。ぶどうは大粒種を基幹に短梢せん定栽培の導入等により省力化を図る。	峡東
No. 8 果樹複合 (観光)	経営面積 100a おうとう 50a ブルーベリー 50a	15,000	7,000	ブルーベリーは初夏から夏休み期間を通じて随時収穫ができ、観光客の嗜好に合った品種構成として、安定的な誘客を図る。	富東 中北
No. 9 果樹複合 (加工)	経営面積 100a もも(早生種) 20a もも(中生種) 20a もも(晩生種) 20a ぶどう(大粒種) 30a かき(加工柿) 10a	13,000	6,000	ももは品種の組み合わせにより労力分散を図る。ぶどうは大粒種を基幹とする。加工用の甲州百目柿は結実安定技術により生産安定を図る。	峡東
No. 10 野菜複合 (露地中心)	経営面積 210a スイートコーン 130a なす 15a 野沢菜(春、秋) 40a にんじん 25a	12,000	5,000	スイートコーンは系統出荷品種とし、トンネル栽培の組み合わせにより労力を分散する。また、輪作によって連作障害を回避する。	峡南
No. 11 野菜複合 (露地中心)	経営面積 60a ほうれんそう(雨よけ)120a スイートコーン(一重) 10a カリフラワー 20a スイートコーン 20a レタス 20a	11,000	5,000	ほうれんそうは年4作、カリフラワー、スイートコーン、レタスは同一マルチ内で年3作栽培とする。スイートコーンは一重トンネル栽培により作期と労力分散を図る。	富東
No. 12 野菜複合 (施設)	経営面積 100a 施設トマト 30a 施設きゅうり 20a 水稲 50a	29,000	5,000	施設半促成養液トマトとハウス抑制きゅうりを基幹品目とし、水稲を組み合わせる。省エネ対策による暖房コストの低減に留意する。	中北
No. 13 野菜複合 (施設)	経営面積 100a 施設なす 20a 施設スイートコーン 20a 施設いちご 20a 野菜 40a	25,000	9,000	施設栽培を基幹とし、夏秋栽培できる野菜類の導入により、収益を確保する。	中北

営農類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	経営のポイント (品目・品種構成、栽培技術など)	想定 地域
No. 1 4 野菜 (施設)	経営面積 1 3 0 a 施設いちご 20 a 野菜 60 a 水稲 50 a	19,000	8,000	冬～春期の観光摘み取りいちごを経営の中核とし、夏作はスイートコーン、なす等の野菜類により補完する。	中北 峡南
No. 1 5 野菜複合 (有機栽培)	経営面積 1 6 0 a 葉菜類 60 a 果菜類 50 a 根菜類 50 a	11,000	6,000	地域の特性に応じた多品目栽培により気象災害や病害虫のリスク分散を図る。販路開拓につながる有機JASの取得を目指す。	中北
No. 1 6 野菜 + 水稲	経営面積 1 0 0 a 施設トマト(半促成) 20 a 施設トマト(抑制) 20 a 野菜 10 a 水稲 70 a	15,000	5,000	施設トマトは作型の組み合わせによる長期採りとし、マルハナバチによる着果促進とハウス育苗による生産安定を図る。水稲は地域のブランド米を導入する。	中北
No. 1 7 野菜 + 水稲	経営面積 1 3 7 a 夏秋なす 25 a スイートコーン(二重) 40 a スイートコーン(一重) 20 a ほうれんそう 10 a 野菜(直売用) 12 a 水稲 100 a	13,000	5,000	夏秋なす、スイートコーン、水稲に直売向け野菜類を補完的に組み合わせる。品種や作型の組み合わせにより作期を分散し、労力を平準化する。連作障害を回避するため、ほ場をローテーションする。	中北
No. 1 8 水稲 + 野菜	経営面積 1 , 3 1 5 a 水稲 900 a 水稲(作業受託) 400 a トマト(夏秋) 15 a	20,000	5,000	直播栽培により低コスト化と作期を拡大し、経営規模拡大のため農地の集積を図る。	中北
No. 1 9 水稲 + 野菜	経営面積 6 1 5 a 水稲 50 a 水稲(作業受託) 500 a トマト 15 a かぼちゃ 10 a スイートコーン 30 a レタス 10 a	14,000	6,000	水稲は簡易ハウスで健苗とし定植する。カリフラワー、レタスは年3作栽培として省力・低コスト化を図る。野菜類は地域ブランドとして販売を促進する。	富東
No. 2 0 水稲 + 他作物	経営面積 2 , 4 0 0 a 水稲 500 a 水稲(作業受託) 1,500 a 大麦・大豆 400 a	24,000	5,000	水稲は地域ブランド米を栽培するとともに、直播等の技術や品種の組み合わせにより労力分散を図る。大豆は狭畦栽培による省力化を図る。	中北

営農類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	経営のポイント (品目・品種構成、栽培技術など)	想定 地域
No. 2 1 花き専作	経営面積 7 0 a シンビジウム 70 a	53,000	5,000	開花株は山上げにより花芽分化を確保し、品種を組み合わせ、年内出荷による有利販売を目指す。3年づくりを基本とする。	中北 峡東
No. 2 2 花き複合	経営面積 1 2 6 a シクラメン 31 a その他鉢花 95 a	48,000	6,000	シクラメンを基幹に春～秋の鉢花を組み合わせることで施設を有効に利用するとともに、底面給水等の省力化技術によりコストを低減する。	中北
No. 2 3 花き複合	経営面積 7 0 a ルクリア 30 a スズランエリカ 5 a シクラメン 15 a 花壇苗 20 a	30,000	6,000	ルクリア、スズランエリカ、シクラメンはクリスマス需要に対応するよう開花促進などの栽培技術により草姿を整える。	富東
No. 2 4 花き + 野菜	経営面積 7 0 a 花壇苗 40 a シクラメン 10 a トマト 10 a スイートコーン 10 a	12,000	5,000	花壇苗は、複数系統の組み合わせとする。シクラメンはプラグ苗と底面給水方式で生産安定を図る。	富東
No. 2 5 茶専作	経営面積 3 7 0 a 茶生産加工 270 a 茶加工 100 a	15,000	5,000	一番茶及び二番茶を摘採し、荒茶・製茶加工の後に販売まで一貫して行う。茶加工は一番茶の荒茶加工を受託する。	峡南
No. 2 6 酪農 (自給飼料型)	飼養頭数 4 3 頭 ホースタン種 43 頭	41,000	8,000	牛舎はスタンション(繋ぎ飼い)とし、自給飼料と購入飼料を混合または分離給与する。また、1頭当たりの年間乳量は9,000kgを確保する。	中北
No. 2 7 酪農 (自給飼料型)	飼養頭数 4 5 頭 ホースタン種 45 頭	47,000	6,000	牛舎はフリーストールとし、混合飼料給与(TMR)方式により飼養管理の省力化を図る。1頭当たりの年間乳量は9,400kgを確保する。	富東

営農類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	経営のポイント (品目・品種構成、栽培技術など)	想定 地域
No. 2 8 肉用牛 (肥育)	飼養頭数 90頭 黒毛和種 90頭	86,000	7,000	増体と肉質に優れる肥育素牛を導入し、飼養管理の向上により、出荷月齢29カ月、仕上体重750kg、枝肉歩留63%を目標とする。	中北
No. 2 9 養豚 (一貫)	飼養頭数 130頭 LW種, D種, LWD種 130頭	97,000	5,000	年間分娩回数2.0回以上、年間子豚離乳頭数21頭とし、衛生管理の徹底により、育成率の向上(離乳時95%)を図る。肥育前期まではエコフィードの利用が可能。	中北
No. 3 0 採卵鶏	飼養羽数 13,000羽 採卵専用種 13,000羽	53,000	5,000	大雛導入方式で雛を年3回導入し、飼養管理の徹底により1日採卵量54gを確保する。直売所を活用し、有利販売を行う。	中北 富東
No. 3 1 淡水魚養殖	飼養頭数 160万尾 ニギマス・甲斐サケ 70万尾 ヤマ・アマゴ 20万尾 イワナ 70万尾	21,000	5,000	養魚池は掛け流し方式で、種卵は自家採卵を主とする。飼料は購入飼料を独自に配合し給与する。	峡東 峡南 富東

(2) 高収益農業経営実践モデル

県内で実践されている収益性の高い優良経営事例をもとに作成したモデルです。施設を活用した収益性の高い品目・作型の導入、独自の販路開拓、6次産業化や観光農業への取り組みなどの特徴的な経営手法についても記載し、高収益な経営を実践するために参考とすべき経営モデルを例示しました。

< 高収益農業経営実践モデルの一覧 >

営農 類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	作目(作型) 経営のキーワード
No. 1 果樹専作	経営面積 130a 日川白鳳、白鳳(施設)30a 日川白鳳 15a 加納岩白桃 15a 白鳳 15a 浅間白桃 15a 川中島白桃 40a	29,000	11,000	施設もも+露地もも 施設栽培に品種を組み合わせた作業分散と家族労力の効率的な活用、及び低樹高・疎植栽培による作業効率の改善
No. 2 果樹専作	経営面積 115a 大石早生 5a ソルダム 10a サマインヅェル 5a 太陽 20a 貴陽 20a 種なしピオーネ 40a シャインスカット 10a 早生系甲斐路 5a	19,000	12,000	露地すもも+露地ぶどう 品種の組み合わせによる作業分散と家族労力の効率的な活用、及び優良品種への早期更新による収益性向上
No. 3 果樹専作	経営面積 155a 高砂(施設) 10a 佐藤錦(雨よけ) 45a 白鳳 35a 太陽 15a 大和百目(あんぼ柿) 50a	26,000	10,000	施設おうとう+露地すもも+露地もも+加工かき 施設、品目、品種の組み合わせによる作業分散と家族労力の効率的な活用、及び周年生産
No. 4 果樹専作	経営面積 130a 種なしピオーネ(超早期) 10a キングデラ(超早期) 20a 種なしピオーネ(早期) 10a 種なしピオーネ(雨よけ) 10a 種なしピオーネ 10a 種あり巨峰 20a シャインスカット 10a 早生系甲斐路 10a 浅間白桃 10a 川中島白桃 20a	29,000	10,000	施設ぶどう+露地もも 施設、品種の組み合わせによる作業分散と家族労力の効率的な活用

営農 類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	作目(作型) 経営のキーワード
No. 5 果樹複合	経営面積 470a もも(早生種) 80a もも(中生種) 120a もも(晩生種) 100a ぶどう(10品種) 170a	194,000	57,000	露地もも+露地ぶどう 品種の組み合わせによる作業分散と労力の有効活用、観光園、仕入れ販売等を組み合わせ、収益を確保
No. 6 果樹複合	経営面積 630a もも(早生種) 100a もも(中生種) 200a もも(晩生種) 200a ぶどう(4~5品種) 80a かき(生食用+ころ柿) 50a	83,000	20,000	露地もも+露地ぶどう+加工かき 品種の組み合わせによる作業分散と労力の有効活用、宅配や観光による有利販売
No. 7 果樹複合	経営面積 1,330a もも(早生種) 210a もも(中生種) 350a もも(晩生種) 300a ぶどう(4~5品種) 370a おうとう 40a かき(生食用+ころ柿) 60a	85,000	19,000	露地もも+露地ぶどう+おうとう 多品目栽培による作業分散と労力の有効活用、借地を活用し規模拡大による収益確保
No. 8 果樹複合	経営面積 130a 高砂(雨よけ) 20a 佐藤錦(雨よけ) 50a 種なしピオーネ 10a 甲州百目(ころ柿) 30a 施設いちご 20a	29,000	12,000	観光おうとう+露地ぶどう+加工かき+施設いちご 観光農園を主体とした収益性の向上、及び周年生産体系の実施
No. 9 野菜専作	経営面積 180a トマト(長期多段取り) 180a 養液栽培	350,000	57,000	施設トマト(養液栽培、周年生産) 参入企業によるオランダ型温室を利用した野菜の施設栽培(長期多段取り)、周年雇用による安定経営
No. 10 野菜専作	経営面積 100a きゅうり(ハウス抑制) 50a 養液栽培 きゅうり(ハウス半促成) 50a 養液栽培 トマト(ハウス抑制) 50a 養液栽培 トマト(ハウス半促成) 50a 養液栽培	40,000	15,000	施設きゅうり(養液栽培) +施設トマト(養液栽培) 養液栽培技術の先駆的導入、スーパーへの直接販売や直売の実施

営農 類型	経営規模	粗収益 (千円)	農業 所得 (千円)	作目(作型) 経営のキーワード
(11) 野菜専作	経営面積 60a トマト(長期どり) 60a 養液栽培	29,000	11,000	施設トマト(養液栽培、長期どり) 先進養液栽培技術の導入、量販店との 契約栽培による安定的な販路確保
(12) 大規模・ 作業受託	経営面積 4,600a 秋そば 1,500a 大豆(転作) 1,300a 転作作物(作業受託) 1,800a	42,000	22,000	秋そば+大豆+作業受託 大規模栽培および作業受託による収益 性向上、地元加工施設への販路確保
(13) 花き専作	経営面積 80a コショウ(大輪) 20a コショウ(中輪) 20a コショウ(ミディ系) 40a	300,000	21,000	洋ラン(コショウラン複合) コショウランの一貫生産体制、大規模 化による収益性向上、販路確保
(14) 酪農	営農類型 酪農 飼養頭数 経産牛120頭 育成牛90頭 飼養品種 ホルスタイン種 経営耕地 飼料作物(牧草) 20ha	146,000	10,000	酪農経営 効率的飼養管理により細やかな個体管 理の実現、自家育成による能力の高い後 継牛確保
(15) 肉用牛	営農類型 肉用牛交雑種肥育 飼養頭数 1,300頭	479,000	31,000	交雑種肥育経営 未利用資源を利用した低コスト肉用牛 生産と独自ブランド化による有利販売
(16) 採卵鶏	営農類型 採卵鶏 飼養頭数 76千羽 (平飼い38千羽、 ゲージ飼い38千羽)	552,000	28,000	採卵経営 平飼いによる鶏卵生産、生協や県外大 手百貨店等への販路拡大、直売所での鶏 卵・加工品の販売

営農類型 施設栽培に品種の組合せで労力分散を図りもも専作で高収益

NO: 1

キーワード 所得1,100万円、品種の組み合わせによる労力活用、積極的な品種更新

ここが凄い(普及センターの評価)

施設栽培に品種を組み合わせた家族労働力の有効活用、優良品種への早期更新による収益向上、低樹高・疎植栽培の導入

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
個人経営(2名、臨時雇用3人)

【粗収益、及び農業所得】
粗収益 29,000千円
経営費 18,000千円
農業所得 11,000千円(所得率38%)
主たる従事者の1人あたり所得 5,500千円
主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
総経営面積 130a

- ・日川白鳳、白鳳(施設) 30a
- ・日川白鳳 15a
- ・加納岩白桃 15a
- ・白鳳 15a
- ・浅間白桃 15a
- ・川中島白桃 40a

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:ももの栽培技術を持った雇用者の確保

農業技術:品種を組み合わせた労力の有効活用、新品種、優良品種への早期改植による収益確保

主要な技術対策等

ももの低樹高・疎植栽培
(受光条件が向上し、作業効率が良くなり、高品質化と規模拡大を両立)



もも低樹高栽培(除袋作業)

特記事項
作業の効率化、安全性向上のため、ももの低樹高栽培を導入している。

やまなしが誇る、高収益農業経営実践モデル

営農類型 新品種の導入により果樹(すもも+ぶどう)生産で高収益

NO: 2

キーワード 所得1,200万円、品目、品種の組み合わせによる労力活用、新品種導入

ここが凄い(普及センターの評価)

品種を組み合わせた家族労働力の有効活用、優良品種への早期更新による収益向上、すももでは低樹高、棚栽培の導入

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
個人経営(2名、臨時雇用2人)

【粗収益、及び農業所得】
粗収益 19,000千円
経営費 7,000千円
農業所得 12,000千円(所得率63%)
主たる従事者の1人あたり所得 6,000千円
主たる従事者の1人あたり労働時間 2,000hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
総経営面積 115a

- ・大石早生 5a
- ・ソルダム 10a
- ・サマーエンジェル 5a
- ・太陽 20a
- ・貴陽 20a
- ・種なしピオーネ 40a
- ・シャインマスカット 10a
- ・早生系甲斐路 5a

経営発展に活用した施策・技術

農業技術:品種を組み合わせた家族労働力の最大限の活用、新品種、優良品種への早期改植による収益性の確保

主要な技術対策等

・低樹高のスモモ棚栽培を導入し、作業性の向上と高品質化を実現



スモモ棚栽培

特記事項
作業の効率化、安全性向上のため、すもも棚栽培、もも低樹高栽培を導入している。

やまなしが誇る、高収益農業経営実践モデル

営農類型 施設栽培の導入と多品目生産(施設おうとう+もも+すもも+加工かき)で労力分散を図り高収益

NO: 3

キーワード 所得1,000万円、作型、品目、品種、加工かきの組み合わせによる労力活用

ここが凄い(普及センターの評価)

施設、品目、品種を組み合わせた家族労働力の有効活用、加工かきの導入による収益向上

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
個人経営(2名、臨時雇用8人)
【粗収益、及び農業所得】
粗収益 26,000千円
経営費 16,000千円
農業所得 10,000千円(所得率38%)
主たる従事者の1人あたり所得 4,700千円
主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
総経営面積 155a
・高砂(施設) 10a
・佐藤錦(雨よけ) 45a
・白鳳 35a
・太陽 15a
・大和百目(あんぼ柿) 50a

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:栽培技術を持った雇用者の確保
農業技術:施設、品目を組み合わせた労力の有効活用、加工かきの導入による秋冬期の労力活用と収益性の向上

主要な技術対策等

・多品目構成による長期間労力活用
・施設、品目、品種を組み合わせた労力の有効活用
・加工かきの導入による収益向上



あんぼ柿づくり

特記事項

施設おうとうから加工かきまで長い作期で労働時間を分散し、年間を通した雇用の活用を図っている。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 施設栽培を活用した果樹生産(施設ぶどう+露地もも)で高収益

NO: 4

キーワード 所得1,000万円、作型、品目、品種の組み合わせによる労力活用、新品種導入

ここが凄い(普及センターの評価)

施設、品目、品種を組み合わせた家族労働力の有効活用、優良品種への早期更新による収益向上

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
個人経営(2名、臨時雇用3人)
【粗収益、及び農業所得】
粗収益 29,000千円
経営費 19,000千円
農業所得 10,000千円(所得率35%)
主たる従事者の1人あたり所得 5,000千円
主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
総経営面積 130a
・種なしピオーネ(超早期) 10a
・キングデラ(超早期) 20a
・種なしピオーネ(早期) 10a
・種なしピオーネ(雨よけ) 10a
・種なしピオーネ 10a
・種あり巨峰 20a
・シャインマスカット 10a
・早生系甲斐路 10a
・浅間白桃 10a
・川中島白桃 20a

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:栽培技術を持った雇用者の確保
農業技術:品種を組み合わせた労力の有効活用、新品種、優良品種への早期改植による収益性の確保
補助事業:雪害により倒壊したハウスの復旧

主要な技術対策等

・施設ぶどうでの超早期栽培導入による収益性の向上
・平行整枝短梢栽培導入による作業の単純化と労力の活用



施設ぶどうの導入

特記事項

施設栽培による高収益化と合わせ、露地では経営効率化のため、省力化技術であるぶどうの平行整枝短梢剪定の導入を進める。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 地域に根ざした果樹観光園で高収益

NO: 5

キーワード 所得5,700万円、農業生産に観光園を組み合わせ収益確保

ここが凄い(普及センターの評価)

農業生産に観光園を組み合わせるとともに地域の出荷物の受け皿として農地の保全にも貢献

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(5名、臨時雇用20人)
 【粗収益、及び農業所得】
 粗収益 194,000千円
 経営費 137,000千円
 農業所得 57,000千円(所得率29%)
 主たる従事者の1人あたり所得 11,400千円
 (経営への留保分含む)
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 総経営面積 470a
 ・もも(早生種) 80a
 ・もも(中生種) 120a
 ・もも(晩生種) 100a
 ・ぶどう(10品種) 170a
 土産品、食堂等の年間売上高:130,000千円

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:研修生を積極的に受け入れるパートナ - 農家を育成
 農地確保:周辺農家との協働による耕作放棄地の活用
 農業技術:低樹高仕立てなど省力化技術の導入
 販路開拓:旅行会社との連携による集客の確保
 その他:観光客が利用しやすいほ場づくり

主要な技術対策等

・消費者ニーズに合った品種の導入
 ・観光ぶどう狩り等による付加価値の向上



観光ぶどう狩り

特記事項

農作業体験等の充実によるリピート率の向上などで集客の増加を進めている。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 果樹複合経営(露地もも+露地ぶどう+かき)と加工品販売で高収益

NO: 6

キーワード 所得2,000万円、雇用の有効活用のための多品目化、加工品の開発

ここが凄い(普及センターの評価)

加工品の開発、付加価値販売、雇用労力の有効活用のための多品目化

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(3名、臨時雇用10人)
 【粗収益、及び農業所得】
 粗収益 83,000千円
 経営費 63,000千円
 農業所得 20,000千円(所得率24%)
 主たる従事者の1人あたり所得 6,500千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 総経営面積 630a
 ・もも(早生種) 100a
 ・もも(中生種) 200a
 ・もも(晩生種) 200a
 ・ぶどう(4~5品種) 80a
 ・かき(生食用+こころ柿) 50a

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:栽培技術を持った雇用者の確保
 農業技術:新品種、優良品種等への早期改植による収益性の確保、省力化技術による労力の有効活用
 補助事業:加工品の開発、直売施設の建設
 販路開拓:HPの活用
 その他:加工品開発技術や接客技術を持った人材の確保

主要な技術対策等

・法人経営による大規模化と直売施設による収益の向上
 ・独自の加工品開発と販売による付加価値向上



加工品の開発

特記事項

生産、加工、販売の一体化による収益性の向上、雇用の有効活用による大規模経営を行っている。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 労力分散を重視した果樹の多品目化(もも+ぶどう+おうとう+かき)で高収益

NO:7

キーワード 所得1,900万円、品目の組み合わせによる労力活用、借地での規模拡大

ここが凄い(普及センターの評価)

露地品目を組み合わせた労働力の有効活用、借地による規模拡大と省力的管理

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(5名、臨時雇用20人)
 【粗収益、及び農業所得】
 粗収益 85,000千円
 経営費 66,000千円
 農業所得 19,000千円(所得率22%)
 主たる従事者の1人あたり所得 3,800千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 総経営面積 1,330a
 ・もも(早生種) 210a
 ・もも(中生種) 350a
 ・もも(晩生種) 300a
 ・ぶどう(4~5品種) 370a
 ・おうとう 40a
 ・かき(生食用+ころ柿) 60a

経営発展に活用した施策・技術

農地確保:借地により栽培面積を拡大、農地の遊休化防止
 農業技術:品種を組み合わせた労力の有効活用、機械の有効活用による省力化、標高の異なるほ場を設けた気象被害の分散
 販路開拓:JA系統を主体に多様な販売チャネルの確保による有利販売

主要な技術対策等

- ・長期にわたる雇用労力の確保
- ・農業用機械の積極的な利用による労働力の有効活用



昇降機の利用(FF摘蕾)

特記事項
 経営の効率化のため、省力化技術であるぶどうの平行整枝短梢剪定の導入などを進めている。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 果樹(観光おうとう+ぶどう+加工柿)と野菜(施設いちご)を組合せた周年栽培で高収益

NO:8

キーワード 所得1,200万円、観光(おうとう、いちご)を中心とした経営、一部果樹を組み合わせた労力に活用

ここが凄い(普及センターの評価)

観光おうとうと観光いちごを主体とした周年経営を確立

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 個人経営(3名、臨時雇用9人)
 【粗収益、及び農業所得】
 粗収益 29,000千円
 経営費 17,000千円
 農業所得 12,000千円(所得率41%)
 主たる従事者の1人あたり所得 4,000千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 総経営面積 130a
 ・高砂(雨よけ) 20a
 ・佐藤錦(雨よけ) 50a
 ・種なしピオーネ 10a
 ・甲州百目(ころ柿) 30a
 ・施設いちご 20a

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:栽培技術を持った雇用者の確保
 農業技術:施設、品目を組み合わせた労力の有効活用
 販路開拓:JAおうとう観光部会による観光PRの促進

主要な技術対策等

- ・観光おうとうと観光いちごの導入により収益性を向上
- ・着果部位が低く摘み取りしやすいおうとうの整枝の導入



観光さくらんぼ狩り

特記事項
 年間を通して誘客可能な品目を取り揃え、中京圏の観光業者に誘客活動を行うなど、観光を中心とした経営を進める。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 周年生産による野菜(施設トマト)生産で高収益

NO:9

キーワード 所得1,400万円、養液栽培技術、契約取引、企業参入

ここが凄い(普及センターの評価)

オランダ型温室を利用した野菜の施設栽培、適切な栽培・労務により安定した経営成果を目指す

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(役員7名、従業員4名、臨時雇用20人)
 【粗収益、及び農業所得】
 粗収益 350,000千円
 経営費 244,000千円
 農業所得 57,000千円(所得率16%)
 主たる従事者の1人あたり所得 14,000千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 2,000hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 総経営面積 180a
 ・トマト(長期多段取り) 180a 養液栽培

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:担当業務の明確化による効果的な農場管理
 農業技術:養液栽培による長期多段取り、
 制度資金:スーパーL資金
 補助事業:強い農業づくり交付金
 販路開拓:食品メーカーとの契約栽培、直接取引

主要な技術対策等

高軒高耐候性のオランダ型温室の活用(夏期の高温負荷の低減、農薬使用量の低減など)



トマトの施設養液栽培

特記事項
 気象条件等を踏まえた栽培管理技術の確立を早期に実現する。

やまなしが誇る 高収益農業経営実験モデル

営農類型 周年生産による野菜(施設きゅうり+施設トマト)生産で高収益

NO:10

キーワード 所得1,500万円、養液栽培技術、直接取引

ここが凄い(普及センターの評価)

野菜の施設栽培において養液栽培技術を先駆的に導入、多様な販売チャネルにより安定した経営を実現

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(3名、臨時雇用6人)
 【粗収益、及び農業所得】
 粗収益 40,000千円
 経営費 25,000千円
 農業所得 15,000千円(所得率38%)
 主たる従事者の1人あたり所得 5,000千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 総経営面積 100a
 ・きゅうり(ハウス抑制) 50a 養液栽培
 ・きゅうり(ハウス半促成) 50a 養液栽培
 ・トマト(ハウス抑制) 50a 養液栽培
 ・トマト(ハウス半促成) 50a 養液栽培

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:周年栽培による周年雇用、社会保険の完備による労力確保
 農業技術:養液栽培技術の導入
 制度資金:スーパーL資金、近代化資金
 販路開拓:スーパーへの直接販売、直売

主要な技術対策等

高軒高耐候性ハウスの活用
 (ハウスの利用により夏期の高温、冬期の低温による負荷を低減し収量を確保)



キュウリの施設養液栽培

特記事項
 省エネルギー技術の積極的な導入による収益性の高い生産を実現する。

やまなしが誇る 高収益農業経営実験モデル

NO:11

営農類型 新技術の導入により安定した野菜(トマト専作)生産で高収益

キーワード 所得1,100万円、先進技術(長期どり)、安定的な販路確保

ここが凄い(普及センターの評価)

トマトの養液栽培技術と作型の組合せにより高収量を確保、契約取引により販売コスト低減

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
個人経営(3名、臨時雇用2人)

【粗収益、及び農業所得】
粗収益 29,000千円
経営費 18,000千円
農業所得 11,000千円(所得率38%)
主たる従事者の1人あたり所得 3,600千円
主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
総経営面積 60a
・トマト 60a(長期どり) 養液栽培

経営発展に活用した施策・技術

農業技術: 繊細な栽培管理を求められる長期どり技術を導入、一般的に収量が低下する冬期の収量確保
制度資金: スーパーL資金、農業近代化資金
補助事業: 燃油高騰対策
販路開拓: 量販店との契約取引による安定的な販路確保、販売コストの低減

主要な技術対策等

環境制御技術の活用
(養液栽培技術にハウス内環境制御等を組み合わせることにより、生産性を向上)



トマトの養液栽培

特記事項
新技術(ハウス内環境制御など)導入により、省エネルギーや安定生産を進めている。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

NO:12

営農類型 土地利用型作物(大豆+そば+作業受託)で高収益

キーワード 所得2,200万円、大規模化による収益性向上、販路確保

ここが凄い(普及センターの評価)

気候に合わせた作目選定、実需者への原料供給、各種農業施策を活用した規模拡大

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
法人経営(4名、臨時雇用なし)

【粗収益、及び農業所得】
粗収益 42,000千円
経営費 20,000千円
農業所得 22,000千円(所得率43%)
主たる従事者の1人あたり所得 5,500千円
主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
総経営面積 4,600a
・秋そば 1,500a
・大豆(転作) 1,300a
・転作物(作業受託) 1,800a

経営発展に活用した施策・技術

農地確保: 作業受託農地に順次利用権を設定し、規模を拡大
補助事業: 水田単事業等を活用した農業用機械の導入、経営所得安定対策による収益確保
販路開拓: 地元加工施設への原料供給

主要な技術対策等

大豆の狭畦栽培
(中耕培土作業の省略、コンバイン収穫の作業性が高まり、省力化につながる。)



大豆の狭畦栽培(播種作業)

特記事項
新たな品目導入の検討や2年3作により、土地生産性の向上を進めている。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 生産と販売の一元化によりコショウラン複合生産で高収益

NO:13

キーワード 所得2,100万円、大規模化による収益性向上、販路確保

ここが凄い(普及センターの評価)

消費者の視点に立った品種の組合せによる品揃えの充実や低コスト生産、自社販売部門の設立による販売拡大を実現

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(4名、臨時雇用11名)
 【粗収益、及び農業所得】
 粗収益 300,000千円
 経営費 279,000千円
 農業所得 21,000千円(所得率7%)
 主たる従事者の1人あたり所得 5,000千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,800hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 総経営面積 80a
 ・コショウラン(大輪) 20a
 ・コショウラン(中輪) 20a
 ・コショウラン(ミディ系) 40a

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:地元雇用の拡大、研修生の受け入れ
 農業技術:海外からの優良開花株の導入による短期栽培の実現、需要期に合わせた計画生産、オリジナル品種の育成
 制度資金:スーパーL資金、農業近代化資金 他
 補助事業:燃油価格高騰緊急対策事業等を活用した低コスト設備や農業用機械の導入
 販路開拓:自社販売部門を設立した販売促進と商品開発(全国の量販店等との取引拡大、他産業とのコラボ商品開発)

主要な技術対策等

・リレー苗を活用した省力化、適切な温度管理による開花調節等の技術を組み合わせ安定生産



コショウランの施設栽培

特記事項

補助事業等を活用した設備等の導入による更なる低コスト化の推進により高い生産性を実現する。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型 細やかな個体管理技術の導入により酪農経営で高収益

NO:14

キーワード 所得1,000万円、効率的飼養管理による細やかな個体管理の実現、自家育成による能力の高い後継牛の確保

ここが凄い(普及センターの評価)

効率的飼養管理による細やかな個体管理の実現、自家育成による能力の高い後継牛の確保

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 個人経営(3名、雇用1名)
 【粗収益及び農業所得】
 粗収益 146,000千円
 経営費 136,000千円
 農業所得 10,000千円(所得率6.8%)
 主たる従事者の1人あたり所得 4,500千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 2,160hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 営農類型 酪農
 飼養頭数 経産牛120頭、育成牛90頭
 飼養品種 ホルスタイン種
 経営耕地 飼料作物(牧草) 20ha

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:農の雇用事業を活用した人材育成・確保
 農地確保:制度資金による農地取得
 農業技術:効率的飼養管理による細やかな個体管理の実現、自家育成による能力の高い後継牛確保
 制度資金:農業経営基盤強化資金

主要な技術対策等

TMR不断給餌方式や搾乳関連機器を利用した飼養管理システムの導入(細やかな個体管理を実現)



フリーストール牛舎におけるTMR不断給餌方式

特記事項

フリーストール牛舎や搾乳関連機器、TMRの不断給餌方式等を総合的に使いこなし、乳量増加と乳質向上を実現する。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型

未利用資源を活用した肉用牛肥育経営で高収益

NO:15

キーワード

所得3,100万円、未利用資源を利用した低コスト肉用牛生産、独自ブランド化による有利販売

ここが凄い(普及センターの評価)

未利用資源を利用した低コスト肉用牛生産と独自ブランドによる全国への有利販売を実現

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(4名、雇用8人)
 【粗収益及び農業所得】
 粗収益 479,000千円
 経営費 448,000千円
 農業所得 31,000千円(所得率6.5%)
 主たる従事者の1人あたり所得 4,800千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,960hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 営農類型 肉用牛交雑種肥育
 飼養頭数 1,300頭

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:県指導農業士として担い手の育成、農業後継者を確保
 農地確保:遊休化した開拓農地を畜産経営により再生
 農業技術:地域の未利用資源を利用した低コスト肉用牛生産、独自ブランドによる有利販売
 販路開拓:直売所を利用した食肉の販売、独自のブランドによる有利販売

主要な技術対策等

地域の未利用資源を利用した肉用牛生産
 (低コスト肉用牛生産が可能、未利用資源の特徴を活かし、独自にブランド化)



未利用資源を利用した飼料

特記事項

未利用資源による低コスト生産とブランド化による高付加価値化、生産情報公表JASにより安全で美味しい牛肉を提供する。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル

営農類型

高品質な平飼採卵による採卵鶏経営で高収益

NO:16

キーワード

所得2,800万円、特殊卵の生産、生協や県外百貨店等への販路拡大、直売所での鶏卵・加工品の販売

ここが凄い(普及センターの評価)

放牧や発酵飼料による特殊卵の生産、直売所での鶏卵・加工品の販売と県外への販路拡大

経営形態、所得

【個人・法人経営、労働力】
 法人経営(農業従事者5名、雇用(臨時含む)35名)
 【粗収益及び農業所得】
 粗収益 552,000千円
 経営費 524,000千円
 農業所得 28,000千円(所得率5.1%)
 主たる従事者の1人あたり所得 5,000千円
 主たる従事者の1人あたり労働時間 1,880hr

経営規模

【経営規模・品種、及び作型】
 営農類型 採卵鶏
 飼養羽数 76千羽
 (平飼い138千羽、ケージ飼い138千羽)

経営発展に活用した施策・技術

人材確保:農業体験や研修生受け入れによる人材育成
 農地確保:制度資金活用による農地取得
 農業技術:放牧と発酵飼料による特殊卵の生産
 制度資金:農業経営基盤強化資金
 販路開拓:直売所における鶏卵・加工品の販売、生協や県外百貨店等への販路拡大

主要な技術対策等

放牧・平飼い等の技術を取り入れた飼養管理
 (ストレスのない飼養環境下で高品質な鶏卵を生産)



放牧平飼採卵方式

特記事項

健康な採卵鶏づくりを実践し、消費者に信頼される高品質鶏卵を生産する。

やまなしが誇る 高収益農業経営実践モデル